

「転職・独立に関心あり」「プライベート優先」が 過去最高 理想の上司、1位：大谷翔平さん、2位：明石家さんまさん

- ◇調査名：「2023年 新入社員意識調査」
- ◇調査時期：3月28日(火)～4月14日(金)
- ◇調査対象：当社が滋賀県内で開催した新入社員研修の受講者
- ◇有効回答数：453人

当社では毎年、3月末から4月にかけて、当社が滋賀県内で開催した新入社員研修の受講者を対象に意識調査を実施しています。今年も453名から有効回答を得ました。

入社動機トップは、「会社の雰囲気・イメージ」(41.6%)でした。仕事よりも「プライベート優先(「どちらかといえば)を含む」(77.2%)は、2004年の調査開始以来、過去最高となりました。就職した企業に「定年まで勤めたい」(43.4%)は3年連続で5割を切り、「転職・独立」に関心を持つ人は36.2%で過去最高となりました。

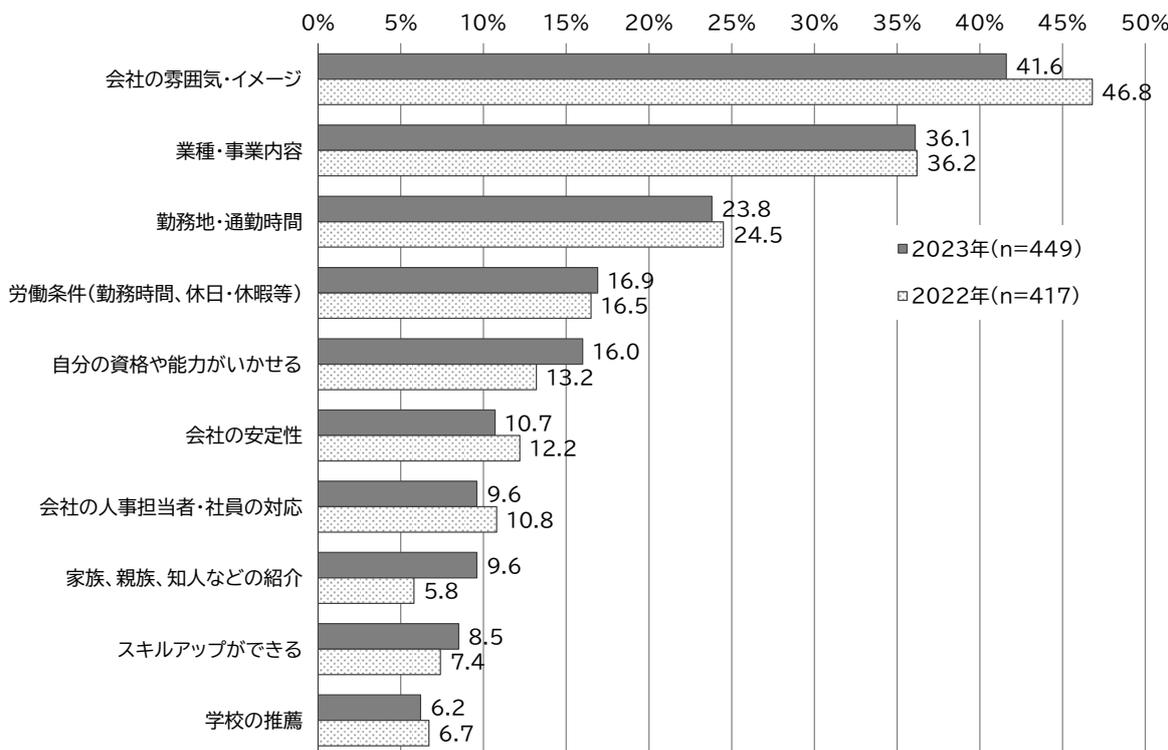
※なお、過去データとの比較において、2020年調査結果は掲載していない(新型コロナウイルス感染症の影響で調査時期が例年と異なり、また、有効回答数も少なかったため)。

※今回より調査票から性別回答欄を無くしたため、男女別での分析は行っていない。

▶入社動機は「会社の雰囲気・イメージ」が4割超

「入社を決めた主な動機」(複数回答)は、「会社の雰囲気・イメージ」(41.6%)が最も高く、次いで「業種・事業内容」(36.1%)となった。トップの「会社の雰囲気・イメージ」は昨年比-4.5ポイントと最も減少し、「家族、親族、知人などの紹介」(9.6%)が+3.8ポイントと最も増加した。

図表1 入社を決めた主な動機 上位10項目(複数回答)

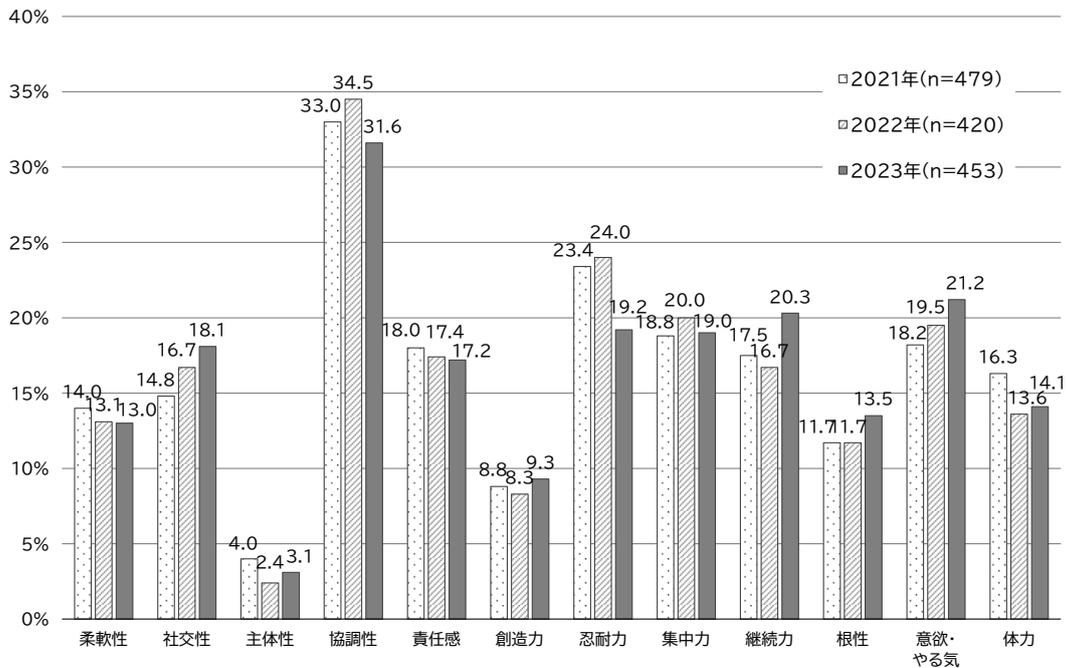


▶自信があるのは「協調性」「意欲・やる気」、不足しているのは「創造力」「主体性」

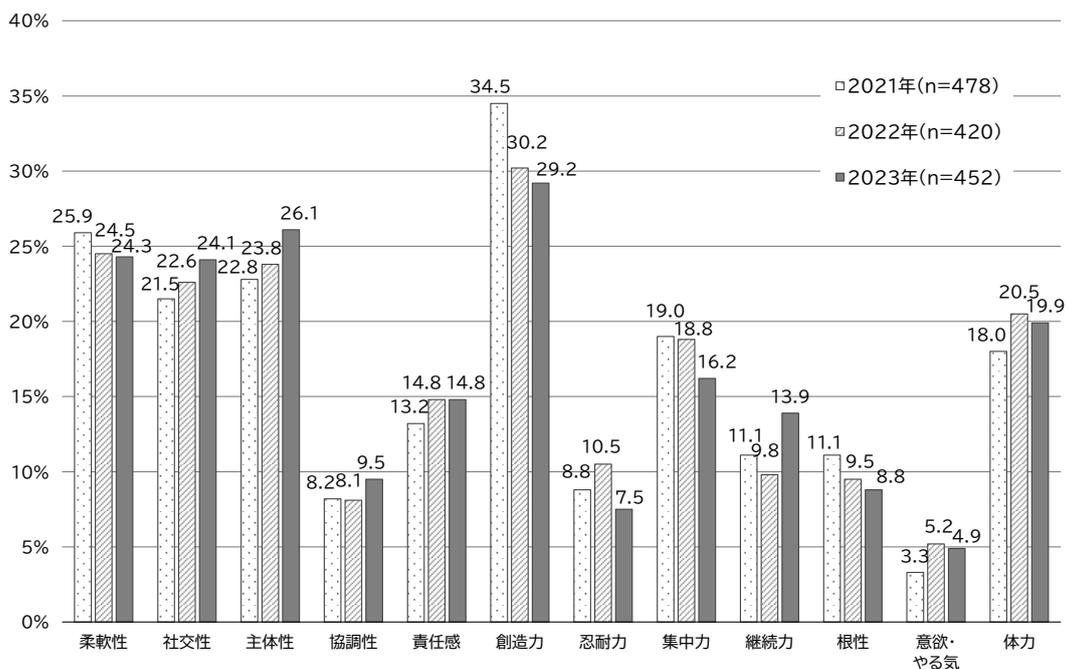
「社会人として『自信が持てる』もの」（複数回答）は、「協調性」（31.6%）が最も高く、次いで「意欲・やる気」（21.2%）となった。昨年比で最も増加したのは「継続力」（+3.6ポイント）で、最も減少したのは「忍耐力」（-4.8ポイント）。

一方、「社会人として『不足している』もの」（複数回答）は、「創造力」（29.2%）が最も高く、次いで「主体性」（26.1%）となった。最も高い「創造力」は2年連続で減少、「社交性」や「主体性」は増加傾向にある。

図表 2 - 1 社会人として「自信が持てる」もの（複数回答）



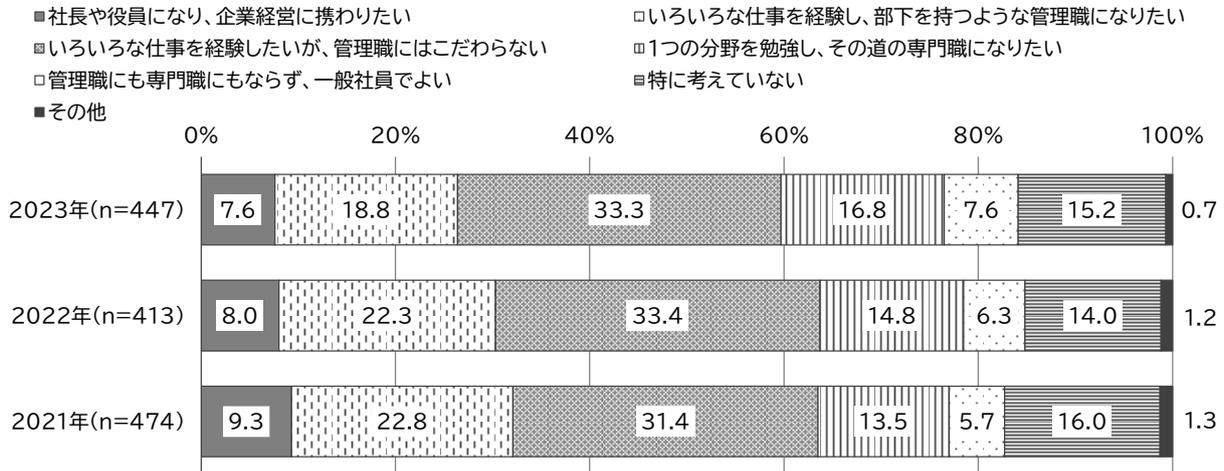
図表 2 - 2 社会人として「不足している」もの（複数回答）



▶ 社会人として歩みたい道は、「管理職にはこだわらない」が3割超

「社会人としてどのような道を歩みたいか」は、「いろいろな仕事を経験したいが、管理職にはこだわらない」（33.3%）が最も高く、次いで「いろいろな仕事を経験し、部下を持つような管理職になりたい」（18.8%）、「1つの分野を勉強し、その道の専門職になりたい」（16.8%）となった。「社長や役員になりたい」や「管理職になりたい」は減少傾向に、「専門職になりたい」は増加傾向にある。

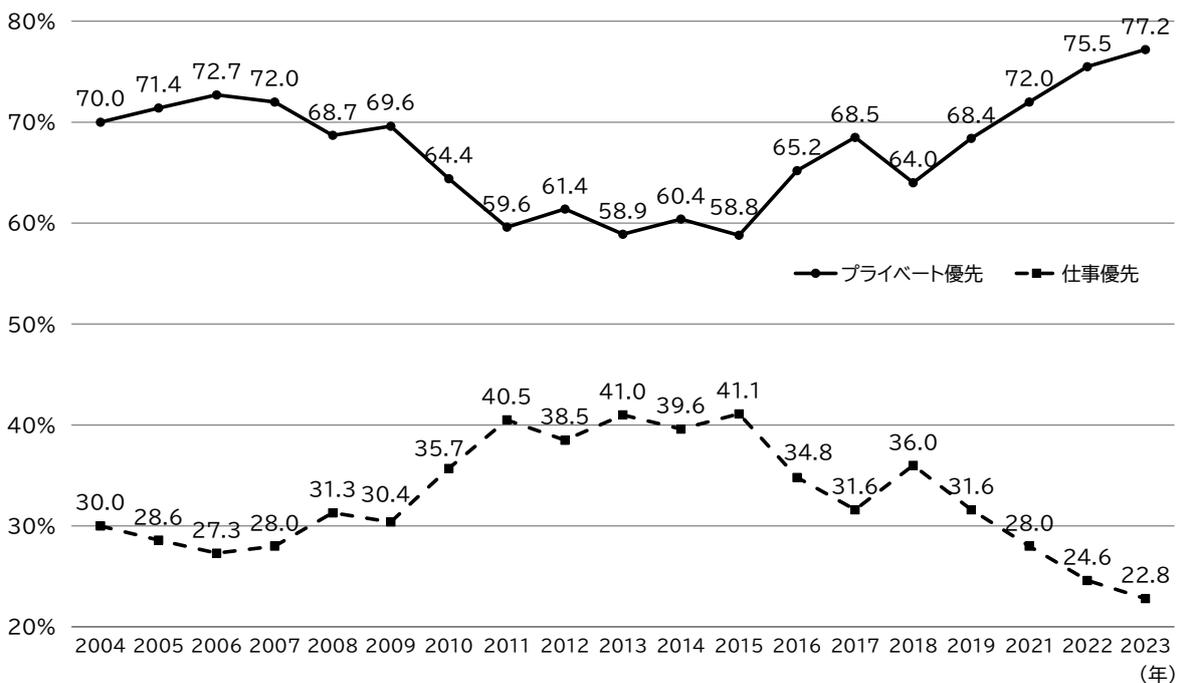
図表3 社会人としてどのような道を歩みたいか



▶ 「プライベート優先」が過去最高に

「『仕事』と『プライベート』のどちらを優先した生活を送りたいか」は、「プライベート優先（「どちらかといえば」を含む）」が77.2%で、2004年の調査開始以来、最も高くなった。「仕事優先（「どちらかといえば」を含む）」は22.8%で、最も低くなった。

図表4 「仕事」と「プライベート」のどちらを優先するか [推移]



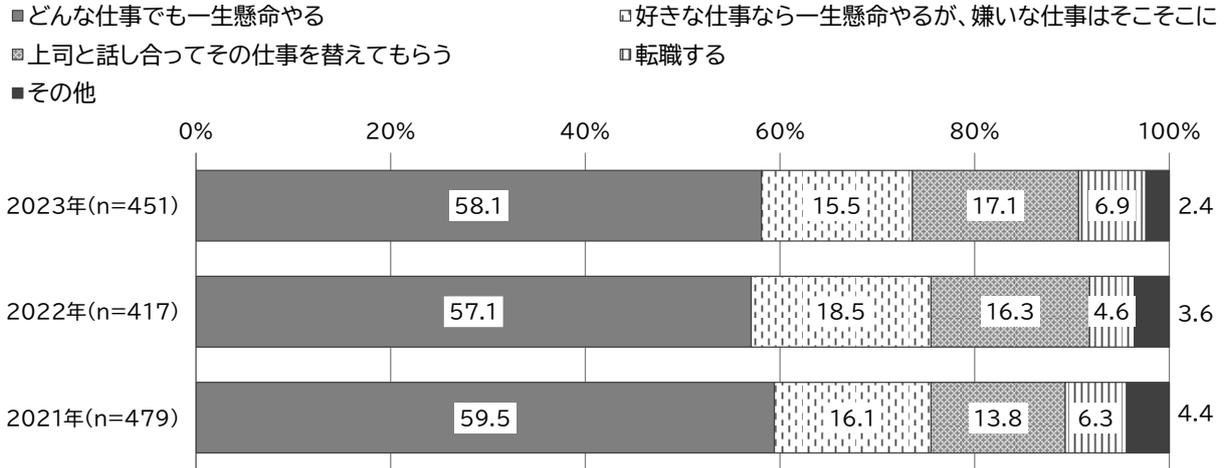
※それぞれ、「仕事優先」と「どちらかといえば仕事優先」の合計、「プライベート優先」と「どちらかといえばプライベート優先」の合計として掲載。

※2020年調査結果は掲載していない（新型コロナウイルス感染症の影響で調査時期が例年と異なり、また、有効回答数も少なかったため）。

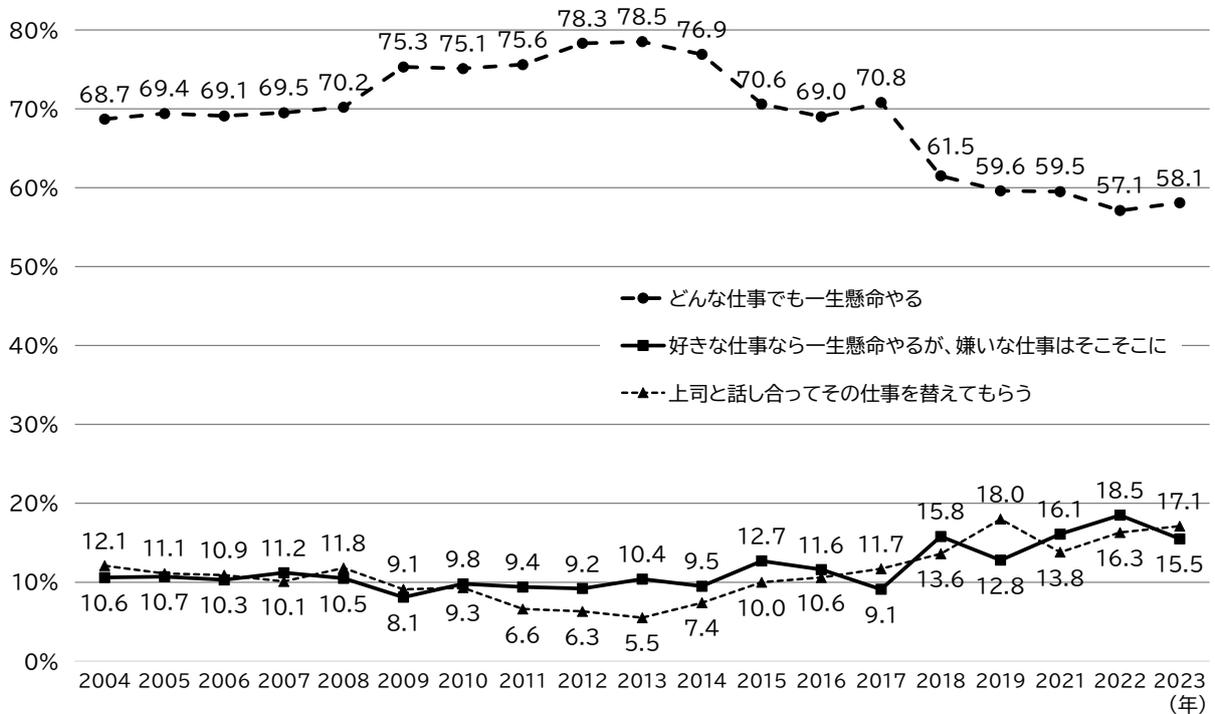
▶ 「どんな仕事でも一生懸命やる」が6割弱

「与えられた仕事が自分に合わないと思えるときはどうするか」は、「どんな仕事でも一生懸命やる」（58.1％）が最も高く、次いで、「上司と話し合っその仕事を替えてもらう」（17.1％）となった。過去の推移をみると、「一生懸命やる」は2014年以降減少傾向にあり、近年は6割弱で推移している。一方、「その仕事を替えてもらう」「好きな仕事なら一生懸命やるが、嫌いな仕事はそこそこに」は小幅ながら増加傾向にある。

図表5-1 仕事が自分に合わないときはどうするか（複数回答）



図表5-2 仕事が自分に合わないときはどうするか [推移]（複数回答）



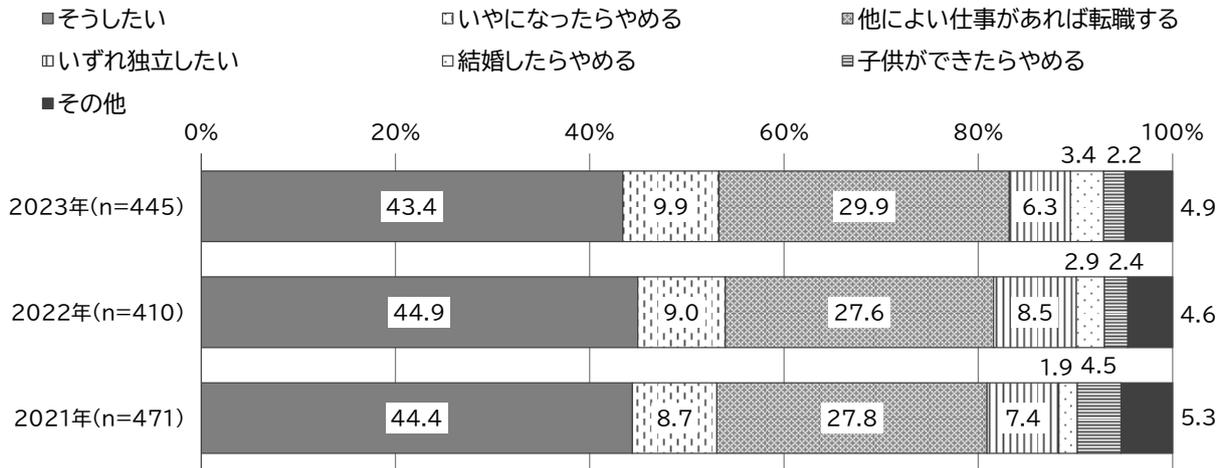
※2020年調査結果は掲載していない（新型コロナウイルス感染症の影響で調査時期が例年と異なり、また、有効回答数も少なかったため）。

▶ 「定年まで勤めたい」が4割超も、「転職・独立に関心あり」が過去最高に

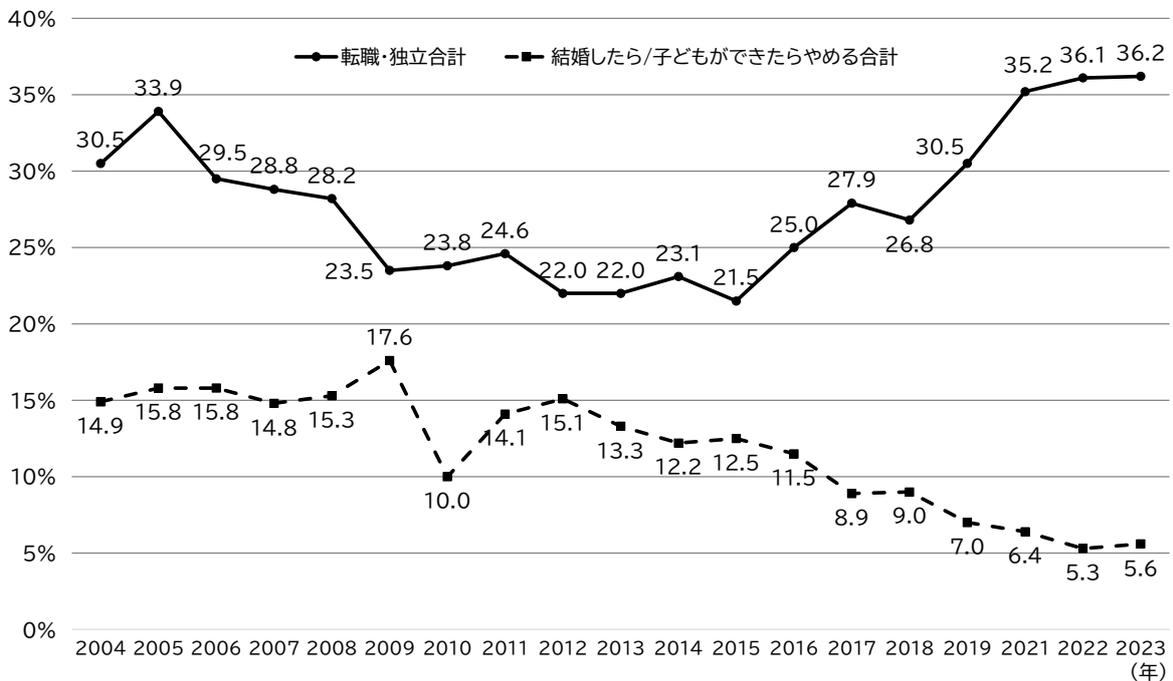
入社する会社に「定年まで勤めたいか」は、「そうしたい」（43.4％）が最も高かったものの、3年連続で5割を下回った。次いで高いのは、「他によい仕事があれば転職する」（29.9％）となった。

「他によい仕事があれば転職する」と「いずれ独立したい」を合計した「転職・独立に関心あり」（36.2％）は2004年の調査開始以来、最も高くなった。「結婚したらやめる」と「子どもができたらやめる」の合計は5.6％（昨年比+0.3ポイント）で、昨年（5.3％）に次ぐ低い水準で推移している。

図表 6 - 1 定年まで勤めたいか



図表 6 - 2 「転職 + 独立」「結婚したら/子どもができたらやめる」割合の推移



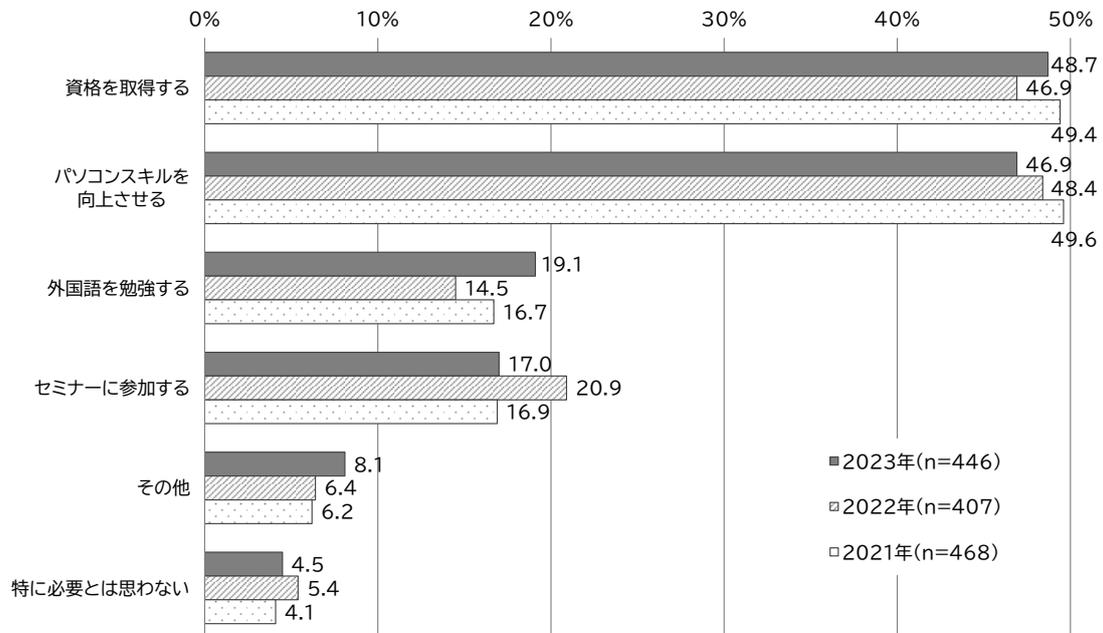
※図 6 - 1、2とも、2020年調査結果は掲載していない（新型コロナウイルス感染症の影響で調査時期が例年と異なり、また、有効回答数も少なかったため）。

▶技能・能力アップに必要な勉強、約半数が「資格取得」「パソコンスキル向上」

「自分自身の技能や能力アップのために、どのような勉強が必要か」（複数回答）は、「資格を取得する」（48.7%）が最も高く、次いで高い「パソコンスキルを向上させる」（46.9%）も同程度を占めた。

「資格を取得する」では、施工管理技士（18人）や建築士（14人）、簿記（10人）といった検定試験など、業種によっては具体的な回答があった。また、「外国語を勉強する」（19.1%）の割合は昨年比で4.6ポイント増加し、具体的記述では、「英語」が56人と突出して多く、次いで「韓国語」6人、「中国語」5人となった。

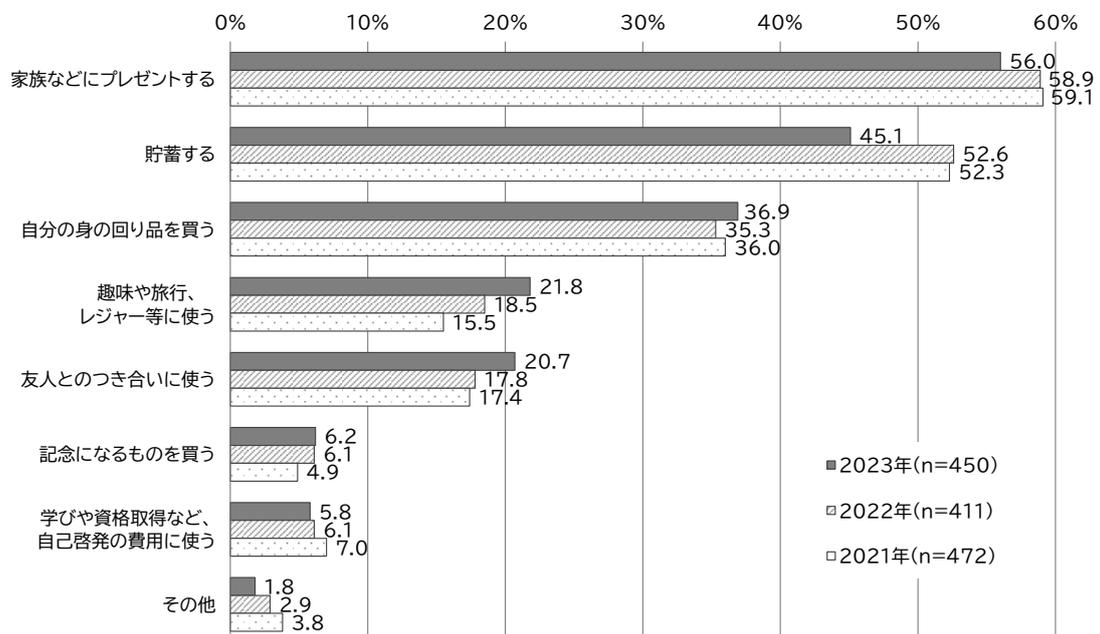
図表7 技能や能力アップのために必要だと思う勉強（複数回答）



▶初めての給料は、「家族などにプレゼント」「貯蓄」

「初めての給料の使いみち」（複数回答）は、「家族などにプレゼントする」（56.0%）が最も高く、次いで「貯蓄する」（45.1%）、「自分の身の回り品を買う」（36.9%）となった。「貯蓄する」は昨年（52.6%）から7.5ポイント減少し、「趣味や旅行、レジャー等」「友人とのつき合い」は増加傾向にある。

図表8 初めての給料の使いみち（複数回答）



(株)しがぎん経済文化センター「2023年 新入社員意識調査」結果

▶理想の上司、1位：大谷翔平さん、2位：明石家さんまさん

「理想とする上司像を有名人に例えると」（フリーアンサー）に対して、有名人1人の名前を回答してもらったところ、1位はプロ野球選手の大谷翔平さん（回答数53人）、2位はお笑いタレントの明石家さんまさん（同20人）となった。6位にWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）日本代表監督の栗山英樹さん、8位にプロ野球選手のダルビッシュ有さんもランクインしており、日本代表のWBC優勝が新入社員の上司像に大きな影響を与えた。

選んだ理由を最大2つ選択してもらったところ、大谷翔平さんは「優しく丁寧に指導してもらえそう」（同21人）が最も多く、次いで「率先して手本を見せてくれそう」（同18人）となった。明石家さんまさんは「面倒見がよく、何でも相談できそう」（同16人）、「部下の意見に耳を傾けてくれそう」（同8人）となった。

図表9 理想とする上司像 上位10位（2023年）

	前年 順位	氏名	回答数(人)
1	—	大谷翔平	53
2	(3)	明石家さんま	20
3	(1)	鈴木一朗(イチロー)	15
4	(2)	水ト麻美	14
5	—	アンミカ	13
6	(10)	ムロツヨシ	11
	—	栗山英樹	
8	—	ダルビッシュ有	9
	(10)	松本人志	
	(7)	天海祐希	

※敬称略

※有名人1名をフリーアンサーで回答

※同数得票の場合は同じ順位

以上

本調査結果についてのお問い合わせ先：(株)しがぎん経済文化センター
産業・市場調査部 長山 (077-526-0005)